

オーチス・エレベータ サービス株式会社	保守点検に関する保守資料 【750T,1000T,1500T,2000T, 3000T 型巻上機ブレーキ】		
Elevators & Escalstors		JES000157	発行日 2017/4/1
		Ver.: 00	Page1

オーチス・エレベータサービス株式会社

本書の記載内容は予告なく変更される場合があります。

最新版につきましては弊社ホームページ (URL: <http://www.oesc.co.jp/Pages/Home.aspx>)をご確認ください。







Copyright © 2016 Otis Elevator Service Company All rights reserved. このマニュアルに関するすべての著作権および知的所有権は、原則としてオーチス・エレベータサービス株式会社(OESC)に帰属する(注)。OESC 社員または同社正規代理店が、OESC の利益を目的としてのみ使用するものとする。形式や目的を問わず、OESC の許可なくこれを複製・翻訳・複写したり、データ処理 ユニットに保存することは著作権の侵害とみなされ、法的措置の対象となる。

(注) 弊社はこれら技術的情報の全部又は一部を Schindler Holding Ltd. 又はそのグループ会社(「シンドラー」)から提供を受け、その同意の下に開示しています。当該情報の権利はシンドラーに帰属するものであり、弊社はその正確性又は完全性について、一切の責任を負いません。

1. はじめに

この点検基準は、所有者の方より、シンドラエレベータ製ロープ式エレベーターの保守・点検について、維持および運行の安全を確保するために、保守点検業者の専門技術者の方へご指示いただきたい事柄を記載した文書です。

保守・点検基準に記載の諸作業の実施については、専門技術者(用語の定義を参照)を対象としているので、必要な安全処置については実施されていることを前提としています。

	警告		強制	本点検基準の総てをお読みいただき、その内容を理解し、且つ使用頻度、利用状況、その他を考慮し、エレベーターを適切な状態に維持してください。
	警告		強制	救出作業は予め十分に訓練し、迅速に対応できるようにしてください。
	警告		禁止	本資料の内容は、所有者、専門技術者以外の方に開示しないでください。 一般の利用者が本資料より知り得た情報をもとに、エレベーターを操作または運転した場合、思わぬ事故が起こるおそれがあります。

エレベーターを保守・点検する専門技術者の方に、必ず本付属資料を熟読いただき、十分理解の上で作業を実施するように依頼してください。

本点検基準は必要な時に、すぐ読めるようにお手元に大切に保管してください。

本点検基準はエレベーターの所有者または管理者が変更になる場合には、適切に引き継ぎを行ってください。

本点検基準の内容について、ご不明な点、ご理解いただけない点がある場合は、オーチス・エレベータサービス(株)にお問合せください。

本点検基準は基本仕様について説明しています。従い実際の製品では一部異なる場合がありますので、予めご承知おきください。

2. 目次

1. はじめに.....	2
2. 目次.....	3
3. ブレーキの点検.....	4
3.1 ブレーキの構造と名称.....	4
3.2 ブレーキの点検.....	4
3.2.1 全般的チェック.....	4
3.2.2 ブレーキパットの残存厚み.....	5
3.2.3 ブレーキ保持力.....	5
3.2.4 ブレーキ制動距離.....	6
3.2.5 ブレーキスプリングの確認.....	6

3. ブレーキの点検

3.1 ブレーキの構造と名称

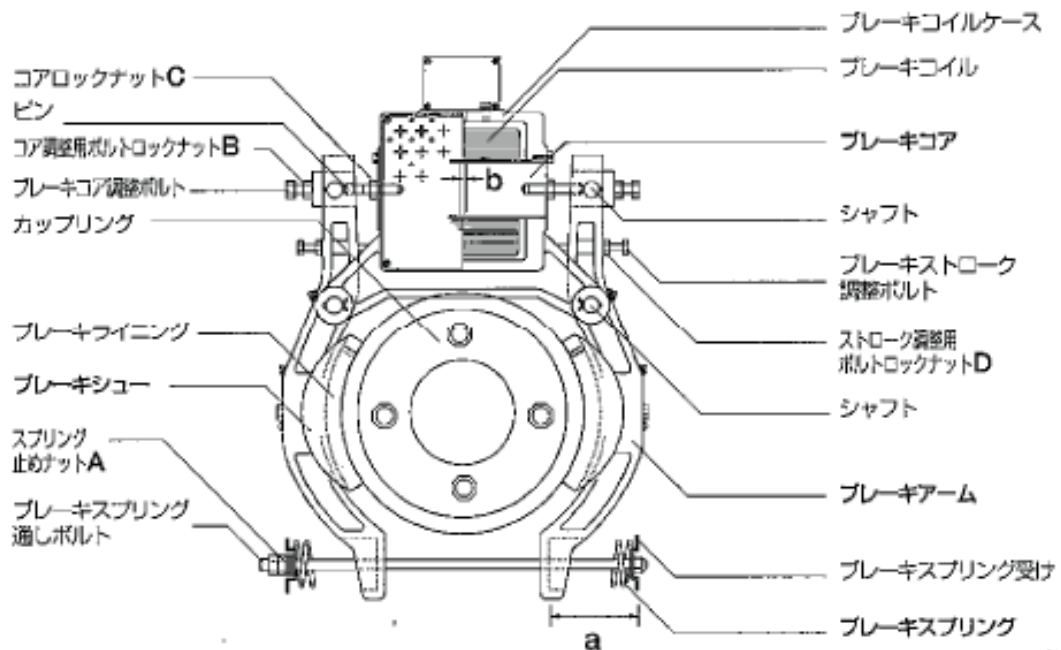


図1 構造図

3.2 ブレーキの点検

3.2.1 全般的チェック

以下のことを確認する。

- ・ブレーキ部分より走行中の異音や異臭の発生が無いこと。
- ・ブレーキパットの摩耗粉が無いこと。
- ・ブレーキ開閉時、大きな衝撃音がしていないこと。
- ・ブレーキドラムに油が付着していないこと。
- ・ブレーキドラムに傷がないこと。
- ・コア及びアームの動作がスムーズなこと。
- ・ボルト、ナットに緩みがないこと。

3.2.2 ブレーキパットの残存厚み

「JES000104 定期検査基準技術資料」のブレーキパット摩耗基準を参照する。

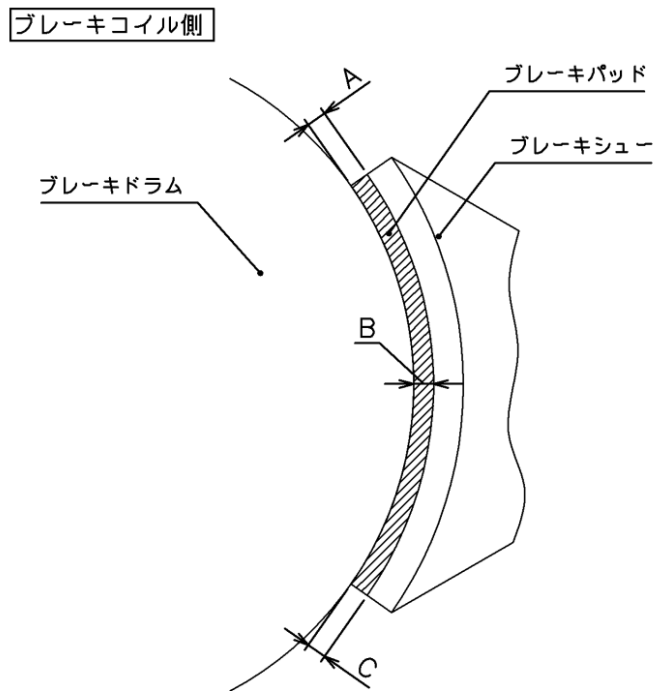


図2 ブレーキパット部

3.2.3 ブレーキ保持力

ブレーキ保持力は、かごに積載の125%の重りを載せ、かごが移動しないことを確認する。

3.2.4 ブレーキ制動距離

かご積載 0%、定格速度、上昇中、昇降行程の中間付近で非常停止をかけた時のかごの制動距離を測定し、基準値内であることを確認する。

表1 制動距離表

VKN (m/min)	KZU	かごの制動距離 SKB(mm)	ロープの制動距離 SZB(mm)
15	1	30…300	30…300
	2		60…600
	4		120…1200
20	1	50…350	50…350
	2		100…700
	4		200…1400
30	1	80…450	80…450
	2		160…900
	4		320…1800
40	1	120…550	120…550
	2		240…1100
	4		480…2200
45	1	150…600	150…600
	2		300…1200
	4		600…2400
60	1	300…1000	300…1000
	2		600…2000
	4		1200…4000
90	1	510…1700	510…1700
	2		1020…3400
	4		2040…6800
105	1	600…2000	600…2000
	2		1200…4000
	4		2400…8000
120	1	720…2400	720…2400
	2		1440…4800
	4		2880…5600

3.2.5 ブレーキスプリングの確認

- ・ブレーキの性能に支障をきたす損傷、劣化、サビが無いこと。
- ・スプリング長さが前回測定値と比較して大きな変化が無いこと。